

## 教育学会第54回大会

### 教育実践の現場からの報告

専修大学教育学会第54回大会が11月23日、神田キャンパスで開かれ、会員、教職を目指す学生など106人が出席した＝写真。

研究会では、今年度採用となった千代田区立麹町小学校の野々村誠教諭(平9法)が「初任者から見た学校現場」を、八王子市立山田小学校の山家哲雄教諭(平14文)が「『36名のちいさくてもわたし』と1年生先生」を発表。横浜市立奈良中学校の種藤博教諭(平9法)が「生徒の興味・関心を高める授業の工夫」を授業での

「政党と選挙」の実践から発表した。講演会では「義務教育・現場からの課題」を教育学会顧問の岩田公夫氏(昭45文)が、子どもを取り巻く環境の変化や教師の資質の問題などから話し、「信念を持ち、明るく行動する教師に」としめくくった。



## ゼミナールOB・OG会

### <松原成美ゼミ>

10月14日、東京・池袋サンシャインプリンスホテルにおいて、松原成美商学部教授の古希を祝う会が250人を超える出席者のもと、盛大に開催されました。来賓及び専修大学のOB・OG、現役生のほか、他大学のOB・OGも多数参加し、松原先生ご夫妻と共に学生時代を懐かしむとても温かい会となりました。

(商学研究科修士2年・柴田恵美子)

### <森下健三ゼミ>

10月14日、東京オペラシティ「東天紅」において、森下健三名誉教授のゼミナールOBが集まり、近況報告を行いました。現役時代のゼミのように活気に満ちた会となりました。



▲OB・OGら多くの出席者が松原教授の「古稀」を盛大に祝った



▲参加者が近況報告を行い、活気に満ちた会に(森下ゼミ)

(昭57経済・檀原康伯)

甘竹秀雄校友会長

## 自社の「理念と戦略」マーケティング特殊講義で

11月22日、(社)日本セルフ・サービス協会の提供講座「食をめぐる流通ビジネスの発展と戦略」(田口冬樹経営学部教授担当)で、(株)アマタケ会長の甘竹秀雄校友会長が、自社の企業理念と営業戦略を講演した=写真。

インカレ5連覇という卓球部黄金時代に主将を務めた甘竹会長は、スポーツを通じて得た忍耐力、決断力、闘争心が経営にも活かされてきたことや、安全な商品を供給することで食文化の向上と健康に寄与する、という目標を語った。



## 《専大校友を訪ねて》

### 恩師の言葉を支えに

プレミアム感とくつろぎを演出する 株式会社ナチュラルローソン  
代表取締役社長CEO 岡田正俊さん(昭55経営)

「毎日包装ばかり。3カ月で辞めようと思った」と25年間勤務した西武百貨店入社当時を振り返る。渋谷店の食品部からスタートし、本部の情報システム部長などを歴任。2005年5月に現職についた。都市型生活者、特に若い女性から圧倒的な支持を得ている新コンセプトのコンビニエンスストア運営事業の経営に当たっている。

70年代に「ベンチャー・ビジネス」という用語を作り出した一人である中村秀一郎・元経済学部教授との出会いが人生観を変えたという。「自立した職業人を目指せ。人生はやり直しがきく」という恩師の言葉と著書をバイブルに歩んできた。

「新人のころ、朝4時までかけて作り上げた企画書も破られてばかり」と笑うが、ヒット企画を連発し、メディアに取り上げられたことも多数。たとえ相手の地位が上でも、臆することなく向かっていく行動力と、「人事以外のすべての仕事に携わった」という経験が多く、出会いを生み、太いパイプとなって現在のビジネスの拡大に役立っている。

渋谷店の食品課長のころ、多摩大学大学院経営情報学研究科(夜間)でサービスマネジメントを専攻。「『モノを売る』というサービスのシステムを論理的に学び直したかったのです。経験に理論を加え、新しい価値を提供出来るようになれば、さらなる強みになると考えました」。大学院では知識だけでなく人脈も広げた。

「モノの見方が鋭く、情報選別の速度が速い」と現在の部下の評。重要事項は会議体で意見を出し合うフラットな組織だが、「決断は自分の責任」と温和な顔を引き締める。「知ったかぶりをするな。目的と意味と構造を述べよ」が口ぐせ。「逃げない、あきらめない、ごまかさない」ことを自身にも社員にも課している。

「都市型展開のビジネスモデルですから、ライバルはいません。マーケティング戦略と強い研究開発力があれば、結果は自ずとついてくる」と先を見据える。

恩師の言葉と25年の経験が結びついて「現在(いま)」がある。